

交流事業:アーティスト・イン・レジデンス プログラム

## AIR21:カナザワ・フリンジ2016

第2期公開イベントのお知らせ



2016年6月11日(土)～9月11日(日)

【第1期】 6月11日(土)～19日(日)

【第2期】 7月23日(土)～31日(日)

【第3期】 9月3日(土)～11日(日)

金沢21世紀美術館を飛び出し、金沢の課題、人、場所に取り組む

イベント名	AIR21:カナザワ・フリンジ2016
期間	2016年6月11日(土)～9月11日(日)
会場	金沢21世紀美術館 シアター21ほか金沢市街
料金	無料
主催	金沢21世紀美術館[(公財)金沢芸術創造財団]、NPO法人金沢アートグミ、山田企画、Kapo、Suisei-Art
お問合せ	金沢21世紀美術館 交流課 TEL 076-220-2811
公式 WEB	<a href="http://air21kanazawafringe.com">http://air21kanazawafringe.com</a>

取材申込み/問合せ先

金沢21世紀美術館 広報担当:川守(広報室) 事業担当:黒田(交流課)  
〒920-8509 金沢市広坂1-2-1  
TEL 076-220-2814 FAX 076-220-2802  
<http://www.kanazawa21.jp> E-mail: [press@kanazawa21.jp](mailto:press@kanazawa21.jp)



## 概要

AIR21: カナザワ・フリンジは、金沢21世紀美術館を飛び出し、アートな視点で金沢の課題、人、場所に取り組むアーティスト・イン・レジデンス(滞在制作)プログラムです。2015年に「Museum x KNZ Fringe〜街と、人と、出会う」として実施し、2016年に「AIR21: カナザワ・フリンジ」と改名。

本年は6月から9月にかけて、5人のディレクターが国内外より招へいするアーティストやクリエイターとともに7つのリサーチプロジェクトを実施します。そこで得られた収穫をもとに、2017年に新作の滞在制作を実施するプログラムへと繋げていきます。

\*「フリンジ」は周縁を意味します。ここでは国内外から招へいするアーティストが、街や人の多様なフリンジと出会い、共に新作を創作する活動を表します。街・人との出会い(meeting)→視点や価値観の再提起(proposal)→創作活動の実行(action)→アーティスト・街・人の緩やかな変化(change)といった創造的な循環スパイラルを積み重ね、金沢が創作活動の拠点(hub)となることを長期的な目標にします。

## 「AIR21:カナザワ・フリンジ」の指標

- ① アーティストが金沢で新作を滞在制作する。
- ② 新作は何らかの「社会的な気づき(social awareness)」や「社会との関わり(social involvement)」を喚起する内容を含む。
- ③ 作品の形態やメディアは問わないが、パフォーマンスの要素があり、観客や参加者がクリエイションの過程や本番で能動的に関わる要素があること。
- ④ 会場は街中のあらゆる場所。
- ⑤ 新作は良いクオリティ作品であること。

## ディレクター / スタッフ

ディレクター:

黒田裕子(金沢21世紀美術館)

上田陽子(金沢アートグミ)

山田洋平(山田企画)

齋藤雅宏(Kapo)

中森あかね(Suisei-Art)

ドキュメンテーション: オノマトベ

## 第2期公開イベント

## トーク

### 「滞在制作をめぐる対話 ー私たちはどこに『滞在』しているのか」

登壇者: 居原田遥(アクティビスト)、住康平(アーティスト)、  
長谷川新(インディペンデント・キュレーター)、土方大(アーティスト、インストラー)

ディレクター: 上田陽子(金沢アートグミ)

[日時] 2016年7月24日(日)15:00~18:00

[会場] 金沢21世紀美術館シアター21

[対象] どなたでも

[料金] 入場無料

アートを作る人、展覧会を企画する人、そして社会活動家が、「滞在制作」をめぐるそれぞれの視点からトークを交わします。既存の「ホスト/ゲスト」によらないアーティストと地域住民との関係を探ります。

## ディレクターコメント

「AIR21:カナザワ・フリンジ」の指標の第一に、「アーティストが金沢で新作を滞在制作する。」とありますが、一体「滞在制作」とは何でしょうか？

そもそも「AIR」とは「Artist-in-residence(アーティスト・イン・レジデンス)」の頭をとった言葉で、アーティストやクリエイターがある土地に赴き、そこに滞在しながら、作品の制作やリサーチ活動を行なうことを指します。

一般的なAIRは、滞在するアーティストが土地をあまり知らないゲスト役であり、異邦人です。

迎える側は、その土地を色々案内したり出会いを繋げたり、土地をよく知るホスト役として動きます。

AIRでは招かれる側と招く側の関係ははっきりとしています。

翻って、このトークではその関係は曖昧です。

また、それぞれが生まれた土地と異なる土地に実際に住み、その土地に言わば「滞在」しながら作品制作やイベント・展覧会・プロジェクトの企画等を行っています。この日々の実践は、1つの「滞在制作」と言えるでしょうか。

ユニークな4人の活動とクロストークから、「滞在制作」について考える試みです。



Map data © 2015 Google

居原田 遙 | Iharada Haruka | アクティビスト |

1991年沖縄県生まれ。アジアのアート・アクティビズム、戦後沖縄美術を対象に、イベントや展覧会、プロジェクトの企画を行う。「寄り道キャラバンプロジェクト」企画(アジア7都市、2015年)、川田淳個展「終わらない過去」(東京、2015年)など。

住康平 | Sumi Kohei | アーティスト |

1979年飛騨高山生まれ。三島市在住。金沢美術工芸大学と東京芸術大学大学院にてインスタレーションを中心とした現代美術を学ぶ。現在、伊豆地方を中心に制作活動を行うとともに、地域の文化振興に関する活動を行う。

長谷川新 | Hasegawa Arata | インディペンデント・キュレーター |

1988年生まれ。本年度より拠点を金沢に移す。主な企画に「無人島にて-「80年代」の彫刻/立体/インスタレーション」(京都、2014年)、「パレ・ド・キョウト/現実のたてる音」(京都、2015年)、「クロニクル、クロニクル！」(大阪、2016年)など。

土方大 | Hijikata Dai | アーティスト、インストレーター |

1989年愛知県名古屋市生まれ。金沢を拠点に作品制作をしつつ、展覧会やイベントなどの企画を行う。「虹の麓」(名古屋、2014年)、「クロニクル、クロニクル！」(大阪、2016年)など。

### レクチャー

## 「ソーシャリー・エンゲイジド・アート： アーティスト・イン・レジデンスの社会関与の可能性」

講師：秋葉美知子 (NPO法人アート&ソサイエティ研究センター リサーチャー)

ディレクター：齋藤雅宏 (Kapo)

[日時] 2016年7月30日(土) 14:00~15:30

[会場] 金沢21世紀美術館シアター21

[対象] どなたでも

[料金] 入場無料



写真：「プロジェクト・ロウ・ハウス」(テキサス州ヒューストン、米国)

アートと社会のつながりを研究している秋葉美知子氏が、社会をより良く変えるためのアートについて、事例を紹介しながら解説します。また、参加者のみなさんとの対話を通して、アートの社会関与の可能性を一緒に探る機会とします。

### ディレクターコメント

アーティストが地域に滞在して制作やリサーチなどに取り組むプログラム「アーティスト・イン・レジデンス(AIR)」が、その地域社会をよりよくするための触媒となる可能性について考えます。

AIRが持つ特徴の一つである「来訪者としてのアーティストが地域の人々と交流し、新たな創作活動を行う事」に着目します。

AIRという言葉が生まれる以前にも、地域を越えたアーティストの移動・交流・創作活動は活発に行われ、その訪れた地域の文化に影響を与えてきました。金沢地域の工芸・生活文化においても、藩政期に扇絵師の宮崎友禅齋を京都から招いたことから加賀友禅が生まれ、裏千家の千宗室・仙叟を指南役に招いたことで茶道が金沢に普及したと伝えられています。この金沢の文化・習慣は今日まで続き、地域のプライドになっています。

近代化を経た現代においては、情報や物、人、資本の移動が多く、それに伴って社会や環境が大きく変化しました。同時に、わたしたちは少子高齢化や社会格差などの社会問題に直面しています。地域社会においては、その地域特有の問題を抱えています。アートによる社会活動「ソーシャリー・エンゲイジド・アート(SEA)」は「参加」「対話」「行為」に重点を置き、社会変革を目指します。本レクチャーを通じ、SEAの実践例を参照しながら、地域社会に対する新たな可能性と価値観をもたらすプログラムとしてAIRをとらえる機会にしたいと考えます。

AIRにおけるアートが来訪者のアーティストのものだけでなく、地域に住むわたしたちのアートとなることを目指したいと考えます。金沢に住んでいるみなさんやアーティスト、行政関係者にご参加頂けましたら幸いです。

\*レクチャー「ソーシャリー・エンゲイジド・アート：アーティスト・イン・レジデンスの社会関与の可能性」は全2回おこないます。今回は主にSEAの実践例を参照する機会とします。次回(9月)は金沢でのAIR×SEAの可能性を探る予定です。

秋葉美知子 | Akiba Michiko | NPO法人アート&ソサイエティ研究センター リサーチャー |

一橋大学経済学部卒、パルコの販売促進、FM雑誌編集、西友宣伝企画、雑誌「アクロス」編集長などを経た後、近畿大学大学院で地域づくりとアート/デザインの関連をテーマに、パブリック・アート、コミュニティ・アートを研究。福岡県の旧星野村(現八女市)の第3セクター専務理事、活水女子大学(長崎市)特別選任教授を務めた後、2013年からアート&ソサイエティ研究センターにリサーチャーとして参加。翻訳書に『グラスルーツ・シアター〜アメリカの地域芸術を探して』(ロバート・ガード著)。

## 展示

## 「まちのかおプロジェクト:金沢桜町編」

アーティスト: マークサーチ marksearch

ディレクター: 中森あかね (Suisei-Art)

[日時] 2016年7月31日(日)~8月31日(水)

[会場] 山鬼文庫近く、田中家具センター角の町内掲示板

[料金] 無料 [問合せ]山鬼文庫 TEL 076-254-6596

オープニングパーティ… 7月31日(日)15:00-18:00

[集合場所] 山鬼文庫(金沢市桜町5-27) [料金] 無料

[対象] どなたでも ご自慢のお掃除道具(はたき、ほうき、たわしなど)をご持参ください。



4

日本人の掃除文化に感銘を受けたアーティスト・マークサーチが、金沢駅桜町の人々のお掃除の習慣や道具についてのインタビューと肖像写真を、路上にある掲示板を使って入れ替わり展示します。

## ディレクターコメント

マークサーチの金沢滞在は、生活のリズムを作ることからはじまりました。

気候や風土、食生活、日本が初体験の彼らは短期間に制作に集中する準備を整えていきました。どのようにリサーチをはじめ、誰に取材をし、誰が参加し、誰に向かうのか、そして、どのような事を成果と言うのか、スタッフと手探りで話し合いました。一か月半の間、町家の修復、職人たちの仕事を見学し、伝統工芸家を訪問、金沢人の暮らしのリサーチを続けてきました。

第2期では彼らの興味の一つ、「掃除」にフォーカスし、金沢のローカルな「町内会」で、「ささいな出来事」を起こしてみるようになりました。これは今後波及し、拡張していくのか、私達はその経過もリサーチしていきたいと思えます。

マークサーチ | marksearch | アーティスト |

カリフォルニア、オークランドを拠点に活動する二人組のアーティスト、スー・マークとブルース・ダグラス。ローカルな町の歴史を掘り下げ、町の歴史と人をつないでいく参加型のプロジェクトを行っている。手作りのツールを自転車につなげて、街角の公園や旅先で「店開き」。時には携帯電話の充電を手動で行えるテーブルを作り、テーブルでの会話が「携帯電話」という新しい通信ツールと比較して、より確かなコミュニケーションになっていることをソフトに皮肉る、*Power Call*(2015)や、カリフォルニアの移民の歴史について、人種の違うそれぞれの小さなコミュニティにインタビューし、集まったそれぞれが抱えている物語を通して、「埋蔵されているわが町の歴史」を捉え直し、現在の町に対する見方を変容させるようなプロジェクト *Communities' Crossing*(2013-2015)を行っている。

\* マークサーチは2016年度の日米芸術家交換プログラム(日米友好基金主催・国際文化会館支援)のフェローとして来日しています。



ブルース・ダグラス

5



スー・マーク

6

## 広報用画像

画像1~6を広報用にご提供いたします。

ご希望の方は下記をお読みの上、下記へお申し込みください。

金沢 21 世紀美術館 広報担当/川守(広報室)

〒920-8509 金沢市広坂 1-2-1

TEL 076-220-2814 FAX 076-220-2802

http://www.kanazawa21.jp

E-mail: press@kanazawa21.jp

## &lt;使用条件&gt;

※トリミングはご遠慮ください。画像が切れたりキャプション等の文字がかぶったりしないよう、レイアウトにご配慮ください。

※情報確認のため、お手数ですが校正紙を広報室へお送りください。

※アーカイヴのため、後日、掲載誌(紙)、URL、番組収録のDVDなどをお送りください。

以上、ご理解とご協力を頂けますようお願い申し上げます